

## 松川町地域産業推進協議会 第1回企画委員会 会議録

日時：平成24年2月13日（月）

午後6時30分～8時30分

会場：松川町役場 2階 大会議室

【今回は初回ということで、協議会委員と企画委員会委員との初顔合わせを兼ね、合同で開催。】

<進行：荻原会長>

### 1. 開 会

### 2. 町長挨拶

- ・産業のレベルアップ、活力あるまちづくりを目指したい。

### 3. 協議会長挨拶（荻原会長）

- ・農商工の代表者の会議であり、地域産業について思うことを言っていただきたい。この町が元気になるよう、充実した会議になることを望む。

### 4. 自己紹介

### 5. 任命書の交付

### 6. 設置要綱及び進め方について（事務局）

- ・設置要綱の概略を説明。今後の会議の進め方は3部構成で、1時間半ほどのワークショップを行い、30分でまとめる。

### 7. 協議事項

#### （1）地域産業について思うこと（全委員より）

（協議会委員）

- ・遊休農地の解消と企業の活性化を考えていきたい。一般企業が農業へ参入してみてもどうか。上伊那農協ではアンポ柿への取り組みが活発である。栗が不足している話を聞くので、ポロタン等を検討してみてもどうか。

（協議会委員）

- ・商工会は商工業の集まりだが、農商工連携については商工会長の強い思いもあり、8月と10月に7名の農業関係者と商工会の三役が打合せ会議を開催している。果樹のオーナー制度、剪定枝などの発生材の活用、講演会の開催、遊休農地の活用、果物加工、若者を含めた交流、みらいの活用、イベントの開催、小水力発電などの活用を提案する。

(協議会委員)

・ぺっかん楽市では、初めてくださもの観光協会からも出展をいただき、農業と商業で連携ができた。野菜等も出展し連携を図る。

(協議会委員)

・松川町は27億円弱の農業生産高があり、平成18年の30億円から見ると毎年5,000万円の減少となる。松川町の農業人口は1,600人であり、人口の15%が農家であることから地域経済に与える影響は大きい。高齢化もあり厳しい状況。安心安全を掲げ、地域との連携が不可欠であり、品質の誇れる産地づくりが必要。

(協議会委員)

・松川町は、戦後リンゴ、ぶどう、桃で100年の歴史がある。20世紀梨、梅、ふじ、市田柿は松川町の財産である。よく分析して次の産業へ繋げていく必要がある。農業は今は過渡期であり、耕作されなくなっていくことに手を打たないと大変なことになる。

(協議会委員)

・日本の生産業が厳しい。果樹の町であり、遊休農地への取り組み。販売にインターネットをうまく活用して観光客増に期待。また松川町を訪れてみたいといったリピーター獲得の観点から、町内の景観整備を検討。

(協議会委員)

・農業と商業は結びつきやすいが、工業をどうしていくかが課題。山梨県北杜市へ小水力発電等の視察に伺ったが、新エネルギーの必要性を感じた。剪定枝を利用した新たな熱源などを、工業から開発してもらいたい。

(企画委員)

・4年前に飯田市竜江の造園業から松川の農家へ来た。現在、果樹販売の独自ルートを開発している中で、松川町の果樹の宣伝効果は凄い。先輩方の尽力を感じる。若武者は貴重な経験で、異業種から農業へ転換した仲間も多く、今後も連携しあっていきたい。

中学生の農業体験を受け入れる機会があるが、昔と違って集中力が無く、りんごの投げ合いをしている光景が見受けられる。次世代を担う子供たちを育てていくためにも、中学生、高校生、大学生を交えた会議を持ってもらいたい。

(企画委員)

・やらざるを得なくて農家の後を継いだが、今は満足している。苦勞して儲からない親の姿を見せては後継ぎがいなくなる。楽しめて儲けられ、持続可能な体制にしていく努力をしている。インターがあるので集客条件は良い。清流苑やみらいの活用を検討して欲しい。こだわりの飲み屋などを商店街に开店させるなど、地域が疲弊しない工夫が必要。

(企画委員)

・観光農園を経営しており、作ったものは捨てることなく客へ売る努力をしている。イベントへの出店をしたり燦燦ファームでバーベキュー等も行っている。松川町の自然の中で付随しているものは財産。イベントがたくさん開催され、来客が多くなるように繋げていきたい。

(企画委員)

・料理の講師をしている。町にはおいしいものがたくさんあるが個人で伝えていくには限界があるので、団体として連携していくべき。みらいの活用が必要。みらいへ弁当を置くなど、町に住んでいる人も活用できる工夫が欲しい。外からの誘客も大切だが、松川町民が松川町を好きだと言えるようになって欲しい。

(企画委員)

・主人がIターンをして、就農して13年。柿はお金になり、将来性があると思う。

(企画委員)

・松川の果物は確立したブランド。松川産を活用しながら、ブランドを維持し発信していくことが必要。商工会でも講演会などを実施していきたい。

(企画委員)

・異業種との関わり合いが大切。地域の歴史を探ったり、活性化のための人材発掘をしていけな  
いか。商店街が寂しく、空き店舗対策が必要。食の大切さと繋げて、地元の食材を使った日替わりのお子様レストラン等を開き、日常の集客を検討したらどうか。

(企画委員)

・ごぼとん井が始まって8年が経つ。全国20の井の中選ばれ、東京ドームのどんぶり選手権にも2年連続出場した。今年は客としての目線で見たいと思い、視察に行ってきた。

「物産」として町の認定をもらい、商品にゴールドラベルを貼ることにより、町がひとつになれる。空き店舗対策の一つとして、新井の農家から新鮮野菜を仕入れて売る、また町のお土産を売るなどを考案したらどうか。

(企画委員)

・商工会女性部の世代交代ができない。友人が都会から松川町を訪れた際、インターがあるのになんて寂しい町だ、と皆言う。周辺に箱物などを整備して活性化が必要。

(企画委員)

・工業が農業参入し、農業で作ったものを商業で販売できれば良い。ユニクロなどは一次産業、二次産業など関係なく事業展開しており成功している。農家の方が商売人だと感じる。商店街の空き店舗は農業で言うところの遊休農地である。

日本のロボット技術は素晴らしく、ロボットが農業を担えるようになれば人件費も安くなり後継者問題も解決するのではないかと。共通のテーマを見据えて、具体的な事案に取り組んでいきたい。

(企画委員)

・県内外、ドイツとも取引をしている。農業と工業の結びつきについて、自分なりに町をPRしている。例えば、お歳暮で20~30社にりんごやル・レクチェを送ったり、くだもの狩りをしたいという問い合わせに対応をしている。そのくだもの狩りに来た方がSSの消毒作業の様子を見て、人体に影響がないのか大変に心配しており、大丈夫ではないかと答えた。

当社はエコアクション21を取得して環境・人体に悪影響を及ぼすものを商品に使わない徹底した管理をしている。エコアクション21を取得しているのは町内で4社だと思うが、町ぐるみで取組みクオリティを高めることで農業でも取り組んでみてはどうか。ブランドと安心感を売りにでき、ゴールドラベルと合わせて付加価値が付くのではないかと。にゃんたぶうとの連携も大切。町ぐるみで組織を作っていったらどうか。

(企画委員)

・地域産業が地域循環できれば良いと思う。雇用や住みたいと言う希望に繋がる。経済循環にはこの町に戻ってきたいというリピーターが必要。安全安心の品質は農商工に共通であり、ソフト面で手伝いをしたい。実際は提案の先が大切であり、町を活性化させることが最終目標。

また、今日の会議録を箇条書きで良いので次回会議までに配布して欲しい。

(企画委員)

・飯田から30年余り通っているのだから、第三者的な立場で客観的に町を見ることができる。当社では外国産木材から高知四万十町の国内産のヒノキに切り替え、地産地消に繋げている。

現在のインターからの景色は、10人が10人素晴らしいと言う。リンゴが実っているのに盗まれない地域性も驚かれた。今さら松川町を都会化しても名古屋や東京のようにはなるわけがないので、15年後のリニア開通を目指して、この地域に何ができるのかを考えるべき。

(企画委員)

・建築業界は土木とは別で自分では成長ができず民需や公共と合わせて伸びていく産業。現在は福祉分野が盛んである。景観の面からインターを降りたら統一された看板があることが大切。看板=サインであり統一されていると大きく雰囲気が変わり、魅力ある町づくりに繋がる。

(企画委員)

・建築業を松川町で発展させるのは不可能。町からの恩恵は皆無なので町外で仕事をしている。税金も農業ほど優遇は無く、苦しいのが現状。町の耐震改修工事も大手ゼネコンが受注しており、松川町の会社が携わっていないのが現状。役場の耐震改修も駒ヶ根の業者がやるようなもの。自分たちの税金が使われているのに。

人口増、外貨、誘客が町の発展にかかっている。高森カントリーは来客数が伸びており、名古屋からの誘客に成功している。

農業ではリンゴ狩りと清流苑を組み合わせるみてはどうか。土岐市は窯業が盛んであったが、現在は衰退おり、アウトレットモールができたことにより窯業をやめた人や外国人をはじめ 500 人の雇用が生まれた。松川にはインターがあるので商業施設も検討してみてはどうか。また、例えば高級老人ホームを建設すると言った、如何に人を集めることができるかが重要。

(企画委員)

・現在無職だが工業に携わっていた。子供が帰ってきたいと言っても働く場所が無い。産業が成熟し、目指すところが分からない。行政が本腰を入れるなら、一番取り組むべきは福祉であり、老人ホームを建設すれば、周りに商店も若者も 3～4 倍の人が集まる。向こう 30 年は絶えないだろう。

農業では、作物をそのまま売るよりも加工品にして売の方が違うブランドにもなり儲かる。まし野ワインのようなことを考えていくべき。地のり的にも農産物を前面に出すことが妥当。何をするにも営業が基本。松川町を売るなら職員がやるべきであるのに下手。宣伝をしていくところらの欠点も分かり、さらに良くなっていく。

(2) その他

(深津町長発言)

・今後はワークショップ形式で進めていく。町長の方針として、行政を経営と見ており、地域産業の活性化は公約の一つである。異業種の交流も大切。リフォーム補助を実施し、一部をマークン商品券で補助した。地域内通貨として循環を行った。

地財の再発見も公約しており、町を再認識し、交流人口を増やしたい。中学校卒業者 150 人に対し出生は 100 人であることが現状で、産業人口は減っている。そんな中定住を進め、みらいの運営委員会も立ち上げた。遊休農地対策協議会では、食用ほおずきの説明会へ 30 件の応募があった。ジャム、チョコ、大福といった加工品を試作している。リニアや三遠南信に向けて、松川町は何を売りにするのが重要。にゃんたぶうのエココンサートには 400 名が来場。エコについてはぜひ意見をいただきたい。清流苑、およりの森、遊歩道、池の平を一つにしていきたい。牧ノ原市の他に、にゃんたぶう繋がりから、埼玉県蓮田市とも友好都市となり防災協定を結ぶ。活性化へ繋げていきたい。

◇ 2 名の方から発言

企画委員：農林と工業における生産額の比率は？

事務局：農林が 1、工業が 10。

企画委員：農林は町の PR となる。松川インター企業団地に企業を呼ぶことは無理なのではないか。ショッピングセンターや老人向け住宅と医療をまとめ高齢者の町にするのはどうか。リニアで松川町へ来て長期的に滞在できる街を目指す。自立して生活できる住居が必要。将来性を見据えれば、製造業よりも介護施設ではないか。

深津町長：企業誘致は大変難しいことであり、いつまでも企業と言ってはられないが、地元との約束もあり企業誘致で進めていきたい。

企画委員：駐車場を確保して欲しい。町外から来たリング狩りのお客様が食事できずに帰ってしまう。自分は「クラフト」と言う若い人の出展イベントに参加していて、広い駐車場が活用されていた。みらいが農業者以外にも活用できているのか疑問。インターが遠く、販売場所がない町内でも、便が悪い人にも直売所が公平であれば良い。別荘は癒しの空間である。西山の方へ、間伐材を使って作り、レンタルするなどを考えたらどうか。

薪ストーブを使っている人は木が欲しい。整備を工夫して欲しい。西山などに竹林を走り回ることができると言った夢のある場所を総合的に作って欲しい。

荻原会長：今後、企画会議で意見を出し合い進めていってほしい。

#### 8. 今後の日程について（事務局）

- ・第2回目の企画委員会についても夜間の会議でお願いしたい。日程が決まり次第通知させていただく。

#### 9. 閉 会

- ・次回の会議までに、今回の会議録をまとめたものを企画委員の方々へお送りさせていただく。

以 上